

平成30年度 徳島県立徳島中央高等学校【定時制課程昼間部】学校評価総括評価表

重点 課題	重点目標	自 己 評 価			学校関係者評価	次年度への課題 と 今後の改善方策
		評価指標と活動計画	評 価 指 標	総合評価	学校関係者の意見	
1 一人一人の生徒の基礎学力を充実させ、進路志望の実現を図る	<p>① 基礎学力の定着を図り、進んで学習に取り組む態度を養うとともに、生涯にわたって健康で学び続けることのできる生徒を育成する。</p> <p>② 早期からの進路ガイダンスとキャリア教育を充実させるとともに、文章を書き発表する能力を高め進路志望の実現を図る。</p> <p>③ 授業やスクーリングのユニバーサルデザインを進めるとともに、必要な教育的支援を行うことにより生徒の個性に応じた主体的な学習を推進する。</p>	<p>①-1 教養への参加率を70%以上にし、学習習慣及び基礎学力の定着を図る。(全年次)</p> <p>①-2 「授業が分かりやすかった」「授業に意欲的に取り組んだ」と思う生徒を70%以上にする。(教務課)</p> <p>①-3 選択した類型に満足度75%以上を達成する。(教務課)</p> <p>①-4 授業時数を標準単位時数に近づける。(教務課)</p>	<p>①-1 1年次は72%、2年次は65%、3年次は63%、4年次は63%であった。</p> <p>①-2 「授業が分かりやすかった」「授業に意欲的に取り組んだ」と思う生徒はともに67%であった。(教務課)</p> <p>①-3 「自分が選んだ類型に満足している」と思う生徒は71%であった。(教務課)</p> <p>①-4 学校行事や祝日等の関係で、達成できなかった教科もあった。(教務課)</p>	<p>B</p> <p>-----</p> <p>① 教養への参加率は全体として目標の70%に到達しなかったが、4年次は昨年度の21%から大幅に向上した。教養は毎日10分間のモジュール学習として設置され、基礎学力の向上と学習習慣の育成に欠かせないものである。しかしながら、教養で学力が付いたと回答した者は50%を切っており、今後この数値をあげていくことが課題となる。「授業が分かりやすかった」「授業に意欲的に取り組んだ」生徒は7割弱であった。授業の工夫改善に積極的に取り組み、生徒の学力の定着を図っていく。</p> <p>② 進路に関する学校行事が、将来の進路に役立つと回答した者はほぼ8割であり、昨年の72%を上回っている。その一方で、トライテストの勉強に熱心に取り組んだ生徒は5割に届かなかった。トライテストの意義や重要性を今一度、生徒に認識させる必要がある。</p>	<p>本校には何らかの支援を要する生徒が多数在籍している。それぞれに応じた手厚いサポートを施し、将来につながる教育を行ってほしい。それには社会が必要とされる基礎学力を身に付けさせることが不可欠である。一人一人の進路志望実現に向け真摯に取り組んでほしい。</p>	<p>① 本校がモジュール学習として取り組んでいる「教養」に積極的に参加している生徒とそうでない生徒との差が激しい。消極的な生徒をいかにして参加させていくかが今後の課題である。地道に参加していくことが基礎学力の蓄積につながることを、保護者と連携を図りながら生徒に理解させていく。</p> <p>② トライテスト前に「全然勉強しなかった」生徒は5割である。半数に及ぶ勉強をしない生徒のモチベーションをいかにして高めるかが今後の課題である。生徒に好評である進路関係の行事とうまくマッチングさせ、トライテストに臨む意識を高めていく。</p> <p>③ 本校昼間部が本年度から「通級による指導」をスタートさせたことを知らない中学校も多い。ホームページ等を通じ、周知の徹底を図っていく。本年度に取り組んできたことをベースに、生徒が主体的に取り組むよう、次年度はさらに充実した授業を展開していく。</p>
		<p>②-1 進路ガイダンスや進路講演会、進路セミナー、職業人講話、労働法規講演会等を開催し、将来の主体的な進路選択に結びつく生徒を85%以上とする。(進路指導課)</p> <p>②-2 年3回実施するトライテストの勉強に熱心に取り組んだ生徒を70%以上とする。また、「総合的な学習の時間」に意欲的に取り組んだ生徒を70%以上とする。(進路指導課)</p> <p>③-1 学校生活を充実したものとするため、スクールカウンセリングを年間30回以上行う。(特別支援教育課)</p> <p>③-2 通級による指導を受けている生徒の授業満足度を80%以上とする。(特別支援教育課)</p> <p>③-3 特別な支援が必要な生徒については、ケース会議を行い、関係機関において相談や支援が受けられるように働きかける。(特別支援教育課)</p> <p>③-4 検定の合格率を70%以上にする。授業で身に付けた能力や成果を積極的に発表したり、プレゼンテーションを行う意欲を養う。(商業科)</p>	<p>②-1 進路関係行事に参加したことで、将来の進路に役立つと答えた生徒が78%であった。(進路指導課)</p> <p>②-2 トライテストの勉強に熱心に取り組んだ生徒が44%に止まった。(進路指導課)</p> <p>③-1 スクールカウンセリングを年間31回実施した。(特別支援教育課)</p> <p>③-2 通級による指導を受けている生徒の授業満足度は80%であった。(特別支援教育課)</p> <p>③-3 ケース会議を7回実施した。また、地域若者サポートステーションや巡回相談員と連携し、相談や必要な支援を行った。(特別支援教育課)</p> <p>③-4 商業科に関係する検定の合格率は、77.65%であった。昨年は73.7%だったので合格率は向上した。検定補習も熱心に行った。(商業科)</p>			

活 動 計 画	活動計画の実施状況
①-1 教養への内容を精選し、基礎学力の定着を図る。(全年次)	①-1 マナトレ基礎編を実施した。確認テストも実施した。(1年次)昨年度の基礎編から標準編に変えた。学年末に教養の確認テストを実施した。(2年次)就職対策の問題集を利用し、仕上げた。基礎学力の定着だけでなく、面接対策等にも活用した。(3・4年次)
①-2 習熟度別にクラスを分け、生徒の実態に合わせた授業プリントや教具を用いることにより、生徒の理解を促進させる。(教務課)	①-2 授業プリントや教具を利用する授業は実施できた。(教務課)
①-3 学校生活に目標を持たせるとともに、魅力あるカリキュラムを実施する。また学力の実態を把握し、習熟度別授業を推進する。(教務課)	①-3 3つの選択類型により多様な生徒に対応する教育課程を実施している。(教務課)
①-4 学校行事を精選し、より多くの授業時数を確保する。(教務課)	①-4 各課とも必要な学校行事もあるため、精選できなかった。(教務課)
②-1 進路ガイダンス等の進路指導課の行事を活用し、ハローワーク等外部からの各種支援も受けながら、生徒の進路希望を達成する。(進路指導課)	②-1 進路関連行事により、生徒の進路意識を高めた。進学希望の生徒は全員希望の進学先へ合格した。就職希望の生徒もほぼ応募先から内定を頂いた。(進路指導課)
②-2 トライテスト対策として、出題範囲を明確にし、問題集『One-Weekトライアル』に取り組みせ、学習習慣を身に付けさせるとともに、基礎学力の定着を図り、主体性を持った幅広い進路選択力を養う。(進路指導課)	②-2 長期休業時に生徒へ配布している課題については、ほぼ全員の者が取り組み提出している。また、家庭学習については全校生徒の約5割が「している」と答えた。(進路指導課)
③-1 カウンセリングについて周知を行うとともに、担任等を通じて必要と思われる生徒にカウンセリングの案内を勧めてもらう。また、夏季休業中の面談を通じて保護者にも直接案内し、利用を促す。(特別支援教育課)	③-1 カウンセリングの周知を年間4回実施した。また、担任などに依頼し、利用を促した。(特別支援教育課)
③-2 通級による指導を受けている生徒の生きづらさや困り感を少しでも解消し、就職、進学に向けてのサポートを行う。(特別支援教育課)	③-2 就職に向けて、身だしなみや面接指導など、細やかな支援を行った。(特別支援教育課)
③-3 特別な支援が必要な生徒については、ケース会を実施するとともに、支援相談員の協力も得ながら、適切な支援は受けられるよう、サポートする。(特別支援教育課)	③-3 ケース会を7回実施した。また、特別支援教育支援員にTTに入ってもらい、生徒の観察や適切な支援を受けられるよう指導した。(特別支援教育課)
③-4 生徒の実態に合わせた授業プリントや教具を用いて生徒の理解を深める。検定合格を目指して補習を実施する。校外で	③-4 計画どおり実施した。検定合格に向けて補習も熱心実施し、商業に関する検定の合格率は、77.65%であった。

③ 個々の悩みに専門的見地からアドバイスするスクールカウンセリングを31回実施することができた。
本年度からスタートした通級による指導の生徒の満足度は8割を超え、まずまずの成果があったと考える。
本校の教員が試行錯誤しながら、特別な支援を要する生徒に応じた授業を展開しているところである。とくしま地域若者サポートステーションや巡回相談員、支援相談員、教育委員会等と連携を深め、汎用化可能な取組を進めている。

	の発表大会に積極的に参加させたり、授業の中で発表の機会を多く用いる。 (商業科)	授業や部活動での取り組みを文化祭で展示し、生徒の意欲の向上に繋がった。 (商業科)		
--	---	--	--	--

重点 課題	自 己 評 価			学校関係者評価	次年度への課題 と 今後の改善方策	
	評価指標と活動計画	評 価	総合評価	学校関係者の意見		
2 基本的な生活習慣を確立し、互いに人権を尊重できる、自立した個性豊かな生徒を育成する	<p>① 暴力やいじめ等の人権侵害を許さない校風を確立し、人権教育・道徳教育の充実を図る。</p> <p>② 家庭・地域との連携のもとにあらゆる教育活動において生徒指導の徹底及び充実を図る。</p> <p>③ 部活動・委員会活動・プロジェクト活動・学校行事等を活性化し、自主的・自立的に進んで集団や社会に貢献できる生徒を育成する。</p>	<p>①-1 安心・安全な学校生活ができるよう、年2回以上の専門家による講演や学校のルールなど、機会を捉え生徒に周知を図る。(生徒指導課)</p> <p>①-2 居心地がよい学校とを感じる生徒を70%以上にする。(人権教育課)</p> <p>②-1 教養への参加を奨励し、日々のマナトレ学習等を積み重ねることで、基本的な生活習慣を確立させ、挨拶の励行・遅刻や早退を防止する。(全年次)</p> <p>②-2 保護者に対して年3回長期休業日前に協力依頼の文書を作成し、問題行動の防止に努める。(生徒指導課)</p> <p>②-3 保護者へ年間5回以上、生徒には随時授業の欠席等を通知する。また、個別面談を3回、三者面談を1回以上実施する。(全年次)</p> <p>②-4 欠席・欠課数が規定の8割に達した時は家庭へ連絡し、連携を図る。(全年次)</p> <p>②-5 ホームルーム活動、集会等で基本的な生活習慣確立について年3回以上の指導を行う。(教務課)</p> <p>③-1 地域のボランティア活動に年1回以上参加させる。(家庭科)</p> <p>③-2 「ゴミゼロキャンペーン」を年6回以上実施し、地域住民の本校に対する評価の向上と、ボランティア活動を通して生徒自身の自己有用感を高める。(環境厚生課)</p> <p>③-3 防災クラブの活動を年間10回以上実施し、地域住民の参加を得た避難所運営支援訓練や炊き出し訓練を1回以上、実施する。(環境厚生課)</p> <p>③-4 生徒の主体的運営を基本として、各種活動に取り組むことのできる学校行事・</p>	<p>①-1 年3回の専門家による講演と長期休業前に学年集会で、社会や学校のルール等生徒に周知した。(生徒指導課)</p> <p>①-2 居心地がよいと答えた生徒がちょうど70%だった。(人権教育課)</p> <p>②-1 担任・副担任による生徒への声掛けはもちろんのこと、保護者への連絡を密に連携し、計画どおり実施した。(全年次)</p> <p>②-2 計画どおり実施した。(生徒指導課)</p> <p>②-3 各年次ごとにスクラムを組み、家庭との連携を密にし、計画どおり実施した。(全年次)</p> <p>②-4 計画どおり実施した。(全年次)</p> <p>②-5 計画どおり実施した。(教務課)</p> <p>③-1 地域のボランティア活動に年1回参加した。(家庭科)</p> <p>③-2 「ゴミゼロキャンペーン」を年6回以上実施した。(環境厚生課)</p> <p>③-3 防災イベントを台風により延期したため、地域住民の参加は少なかったが、計画した内容は実施した。(環境厚生課)</p> <p>③-4 生徒会の役員会を行事前に実施した。文化祭で三課程合同生徒会による</p>	B	<p>青葉保育園で「とくしま中央一座」が人形劇を公演してくれ、本当にありがたかった。園児の豊かな成長に体験活動は欠かすことができない。高校生による人形劇は新鮮であり、園児たちも大喜びであった。公演後に高校生が話をしてくれたら、一緒に遊んでくれたりして心の交流が図られていた。外部から刺激を受けることは、生徒にとって有益である。今後も良い講師に来ていただき、居心地のよい学校づくりを推進していく。</p> <p>② 生徒の健全育成には学校と家庭との連携が不可欠である。本年度はほぼ計画どおり実施することができた。今後も文書発送、電話連絡、面談等を通じて情報を交換し、生徒指導の充実を図っていく。</p> <p>③ 本校近隣の青葉保育園の運動会のボランティア活動に家庭クラブのメンバー3名が参加した。生徒も園児から元気をもらい、また自己有用感を高めることができた。「ふるさと大好き！加茂地区防災イベント」では地域の方々にも参加していただき、炊</p>	<p>① 居心地がよいと答えた生徒は、昨年度の65%から70%に増加した。本年度力を注いできたレジリエンスを育む教育をさらに推進する。今後もお互いが人権を尊重しあう、生徒の心のふるさととなる学校を目指していく。</p> <p>② 保護者アンケートに「中学生の時より楽しそうに通学しているので安心しています」という意見があった。このような意見を糧に、同様の意見がもっと出るよう、家庭や地域との連携を深めながら、全ての教育活動に組織的に取り組んでいく。</p> <p>③ 本年度は被災地への募金活動にも取り組んだ。また、5つの体育部が全国大会に出場、全国高校総合文化祭にも「とくしま中央一座」が参加を果たした。次年度もこれまで以上に部活動を活性化したり、様々なイベントにも参加したりして、生徒の自己有用感を高め、集団や社会に貢献できる生徒の育成に全力で邁進していく。</p>

<p>生徒会活動の充実を図る。(特別活動課)</p>	<p>募金活動を行った。予餞会で思い出ビデオに加えて、卒業生のアンケートで決めた映画を上映した。(特別活動課)</p>	<p>き出しやロープワーク、避難シミュレーションゲーム等を通じて、防災意識の高揚、防災力の向上を図ることができた。 今後も地域との連携を大切にし、地域とともにある徳島中央高校を推進していく。</p>
<p>活 動 計 画</p>	<p>活 動 計 画 の 実 施 状 況</p>	
<p>①-1 関係機関と連携して、講演会や全校集会などの機会を捉え、学校におけるルールの遵守は社会のルールでもあることを生徒に理解させる。(生徒指導課)</p> <p>①-2 一斉人権学習や担任を中心に行う常時指導で、お互いの人権を尊重する精神の涵養を図る。(人権教育課)</p> <p>②-1 保護者への連絡を密にしたり、学年通信を発行したりして、生徒が将来の目標を持って努力できるよう、年次団で一致協力して指導する。(全年次)</p> <p>②-2 保護者への協力依頼の文書の中に「いじめ防止」や問題行動の防止に関する内容を必ず入れる。(生徒指導課)</p> <p>②-3 学年団で一致団結して生徒の指導にあたり、日々の家庭連絡や三者面談を通じて家庭との連携を密にする。(全年次)</p> <p>②-4 欠席の多い生徒の保護者に対して、「出席状況表」を送付するとともに積極的に家庭訪問を実施し、家庭との連携を図る。(全年次)</p> <p>②-5 担任が生徒との個人面談の時間を確保できるように面談週間を設け、また節目において、基本的な生活習慣の重要性について話しを行い生徒の意識改革を図る。(教務課)</p> <p>③-1 将来保育士を目指す生徒に青葉保育園の運動会のボランティア活動の参加を募る。(家庭科)</p> <p>③-2 「ゴミゼロキャンペーン」を計画・実施する。(環境厚生課)</p> <p>③-3 防災クラブの活動を昨年以上に充実させる。(環境厚生課)</p> <p>③-4 球技大会、文化祭について教職員や生徒、保護者の意見を取り入れ、活性化と効率化を図る。(特別活動課)</p>	<p>①-1 県警本部、学校薬剤師等と連携して講演会を行い、ルールの遵守について生徒に理解させた。(生徒指導課)</p> <p>①-2 年間6回の一斉人権学習と毎月の人権の日に資料を配付し、人権尊重の精神を涵養する取組を行った。(人権教育課)</p> <p>②-1 実施した。(1年次)保護者への連絡は必要に応じてできた。学年通信は毎学期末に配付した。(2年次)実施した。学年通信は各学期2回発行した。(3年次)実施した。こまめに電話・文書による連絡を行った。(4年次)</p> <p>②-2 計画どおり実施した。(生徒指導課)</p> <p>②-3 計画どおり実施した。(全年次)</p> <p>②-4 計画どおり実施した。(全年次)</p> <p>②-5 各学期当初に面談週間を設け、計画どおり実施した。必要な機会を捉え、担任が適宜面談を行った。(教務課)</p> <p>③-1 青葉保育園の運動会のボランティア活動に1年次2名、2年次1名の合計3名が参加した。(家庭科)</p> <p>③-2 「ゴミゼロキャンペーン」を計画・実施した。(環境厚生課)</p> <p>③-3 防災イベントを始めとして昨年並の取組であった。(環境厚生課)</p> <p>③-4 球技大会は気候を考慮し、1学期にバレーボール、2学期にバスケットボールに変更した。体育祭は、安全に走れるようにトラックを整備した。(特別活動課)</p>	

重点 課題	自 己 評 価			学校関係者評価	次年度への課題 と 今後の改善方策
	評価指標と活動計画	評 価	総合評価	学校関係者の意見	
3 教職員の資質向上に努め、保護者や地域の期待に応える学校づくりを推進する	① 職場における教職員研修に努め、風通しの良い職場づくりを進めることにより、一人一人の教職員が十分に力を発揮できる学校づくりを推進する。	①-1 管理職による教職員面接を年2回以上実施し、教職員一人一人の理解を深める。 ①-2 希望研修や大学・研究機関等研修等に各教職員が年間1回以上参加し、資質の向上を図る。	①-1 計画どおり実施し、教職員への理解を深め、風通しの良い職場づくりを推進した。 ①-2 ほぼ全員が希望研修や各種講演会等に参加し、それぞれの資質の向上を図った。	B ----- ① 教職員の資質向上には、とくしま教員育成指標を踏まえ、個々の目的やニーズに応じた研修を受講することが効果的である。 今後魅力的な校内研修を実施したり、希望研修等の校外研修受講を督促したりして、生徒のために常に学び続ける教職員集団を構築する。 ② 近い将来発生するとされる南海トラフ地震に対応するためにも、教職員が学校防災計画を熟知し、日頃から報告・連絡・相談体制を確立していることが必要である。個々の役割を再確認し、災害に適切に対応できるよう備えていく。 ③ ホームページのアクセス数は目標値を大きく上回ることができた。1日500件を超える事も数回あった。学校の取組をタイムリーに発信する手立てとして、ホームページの更新は欠かせない。学校行事や生徒の様子等を今後も積極的に発信していく。	① ホームページのアクセス数が目標を大きく上回っていることは素晴らしい。以前はそれほど更新されてはいなかった。ホームページによって学校の情報が即座に得ることができ、企業も学校のホームページを参考にしていて、長い間更新されていないと不信感につながる恐れもある。新しい情報も交え、どんどん更新して欲しい。 ② 安全管理体制の基本となる報告・連絡・相談を確立するには、日頃からの人間関係が大切である。風通しの良い職場環境づくりを心がけた。これまでのPDCAサイクルに加え、OODAループもうまく活用しながら、いついかなる時でも対応できるよう計画的・組織的に準備をしていく。 ③ アクセス数が増えるとホームページ担当のモチベーションも大いに高まる。よりよいものを迅速に発信しようという気持ちになる。本年度は「校長室より」という新しいページも開設し、好評を得ている。今後どんな情報が求められているかをリサーチし、ニーズに対応できるよう、ホームページの充実を図っていく。
	② 報告・連絡・相談の徹底を図るとともに、学校の安全管理体制を整え、事故防止や災害に備えた安全な学校づくりを推進する。 ③ 生徒・保護者・地域社会の期待に応える定時制・通信制教育をめざし、教育制度の最適化を図るとともに、「開かれた学校づくり」を推進する。	②-1 生徒との記録をデータとして残し、学年主任・管理職との連携を図り、ホームルーム運営を行う。(全年次) ②-2 学校防災計画を生徒、保護者、教職員に周知し、防災避難訓練を年1回以上、防災関係の研修会を年1回以上行う。(環境厚生課) ②-3 『自主点検検査チェック票』に基づき、各箇所責任者において施設・設備の点検を毎月1回以上、地震・台風・大雨等発生時に実施し、適切に対応する。(環境厚生課)	②-1 計画どおり実施した。(全年次) ②-2 計画どおり実施し、一定の成果を挙げたが、保護者による防災イベントへの参加はなかった。(環境厚生課) ②-3 計画どおり実施し、災害発生時にも適切に対応した。(環境厚生課)		

		やかではあるが交流ができた。 (特別活動課)		
活 動 計 画	活動計画の実施状況			
①-1 教職員との積極的な対話を通じ教職員一人一人の理解を深め、必要に応じメンタルサポートに努める。	①-1 一人一人時間をかけ、積極的に対話をした。調子のよくない者へはその都度声掛けをし、サポートに尽力した。			
①-2 各教職員にまめに声掛けをし、意欲的に様々な研修を受講し、実践力を高めるよう促す。	①-2 面談時や日常の機会を通じて声掛けをした結果、ほぼ全員がキャリアアップに繋がる研修を受講した。			
②-1 年次会などで情報を共有し、年次団で協力し合ってホームルーム運営にあたる。 (全年次)	②-1 計画どおり実施した。 (全年次)			
②-2 関係機関と連携して避難訓練や避難所開設訓練を実施し、防災力の向上を図る。 (環境厚生課)	②-2 台風により、日程を変更して実施した。 (環境厚生課)			
②-3 各箇所責任者において施設・設備の点検を継続的に実施し、異状を確認した場合は速やかに改善する。 (環境厚生課)	②-3 継続的かつ適切に対応した。 (環境厚生課)			
③-1 巡回する担当者を決め定期的に巡回し、地域の方々と積極的に関わりを深める。 (生徒指導課)	③-1 地域の方々と挨拶を交わし、積極的に関わり情報を収集した。 (生徒指導課)			
③-2 生徒と保護者にアンケートを実施することにより、授業の在り方を検討し、学校行事の精選や改善に役立てる。(総務課)	③-2 計画どおり実施した。 (総務課)			
③-3 P T A総会において、学校評価結果を報告するとともに、学校行事等をホームページに掲載し開かれた学校づくりを推進する。 (総務課)	③-3 計画どおり実施した。 (総務課)			
③-4 11月に学校開放日を設定し、授業見学できる機会を設け、開かれた学校づくりを推進する。 (教務課)	③-4 計画どおり実施した。 (教務課)			
③-5 関係各課と連携しホームページの更新を行い、保護者や生徒へ周知を図る。また、中央祭や学校開放の日等を通じて地域の方への周知も図る。(視聴覚情報課)	③-5 計画どおり実施した。 (視聴覚情報課)			
③-6 円滑な人間関係を築くとともに、地域に愛される学校を目指す。(特別活動課)	③-6 月に一度挨拶運動を実施した。文化祭に沢山の地域の方に来ていただいたので、今後はポスターを校外に貼る等してPRしたい。 (特別活動課)			

「評定」の基準

A：十分達成できた

B：概ね達成できた

C：達成できなかった